

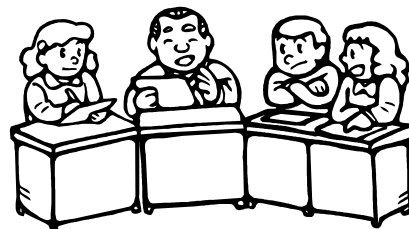
# 校長室だよ



H24 (2012) 年 NO.9 岸和田市立浜小学校 渡瀬 克美

## 「PTA 実行委員会での学校からの報告をご紹介します。」

去る2月17日、今年度最後の実行委員会がありました。内容はPTA活動の報告と反省でした。それぞれの委員会の活躍ぶりがよく分かるものでした。学校を支えてくださっているPTAの実行委員の方々のご努力に対して改めて敬意を表するとともに衷心より感謝申し上げます。さて、浜小学校では、年間3回の実行委員会の席で学校の取組等を毎回報告させていただいています。それは、実行委員会という大きな会議(60名を超す)でP(保護者)だけのお話ではなく、T



(教員)も参加し実行委員のみなさんに学校の様子を知っていただきたいと考えたからです。今年度で9年目になります。全校の保護者の皆さんにも知っていただきたい内容ばかりですので、それぞれの担当の教員からの話を紹介します。

### 【研究推進委員会】から

今年も「豊かな人権感覚の育成をめざして」いろいろな人の願いや思いがわかり、自分も人も大切に育てる子どもの育成をテーマとして研究を進めてきました。昨年度より算数科の授業(学習)を通してその時間に課題に対して、自分の考えを持ち、それを自分の言葉で説明できる子どもにしたい……。この目標に向かって全職員一丸となって日々の授業(学習指導)に臨みました。そして、算数科のみならず、学校教育全体において自分の考えを持ち、そしてその考えを学級のみならずに分かってもらえるように自分の言葉で説明できるように指導してきました。5月の全学年公開授業から9カ月余りの2月をその成果を問う機会ととらえ、6年、1年、4年が研究授業を公開しました。結果、どの学年も自分の考えを持ち、自分の言葉で話そうとする姿が見えているように感じられます。まだまだ、来年度に向けて課題もありますが、その時その場で自分の考えを持って行動していこうとするたくましい浜っ子をめざしたいと考えています

### 【生活指導・人権推進委員会】から

まず、4月当初に比べて全体としては落ち着いています。集中して学習したり、静かに集会に参加したり、一生懸命掃除をしている姿が多くみられるようになってきました。しかし、自分の感情をコントロールできずに暴言を吐いたり、暴力をふるったりしている子もいます。暴力では何の解決にもならないことを改めて指導しているところです。私たち教職員は子どもたちに「さん」をつけて名前を呼んだり、ていねいな言葉で話しかけたりしています。しかし、子どもの中には先生を呼び捨てにする子もいます。お互いが気持ちよく過ごすにはどうすればいいのかを考えて行動できるようになってほしいと願っています。あいさつについてですが、児童会の子どもがあいさつ運動をしています。あいさつができる子は増えてきましたが、あいさつは人間同士が一緒に過ごすための基本です。「今日一日よろしくお願ひします」の気持ちを込めて「おはようございます」が言えるように、そして、そのあいさつを自分から言える子が増えるよう、お家の方のご協力もお願いいたします。今年度も安全・安心の学校をめざし、避難訓練や校区巡回を続けてきました。人権については、ビデオを見たり、障がいをお持ちの

方に来ていただきお話を聞いたりしました。このような学習を通して、自分も友達も尊重し、お互いが気持ちよく過ごせる学校をめざしてきました。子どもの成長には学校・家庭・地域が協力していくことが不可欠です。来年度も引き続きこのような活動を続け、安全・安心の学校を創っていきますのでご協力をよろしく願いいたします。1年間ありがとうございました。

【保健体育部】から

体育的行事としては本年度もスポーツテスト・学校水泳・運動会・持久走記録会と大きく4つを行いました。天候の関係で延期になったりもしましたが、児童と教師がそれぞれ目的を持って取り組めることができました。また、行事のたびにPTAの役員様をはじめ多くの保護者のご協力にも大変感謝しております。体育主任として行事を運営してみて感じたことですが、全校練習の場での指示が非常に通りやすく、「指導しやすかった」というのが印象的でした。特に運動会ではうだるような暑さの中だったのですが、さっと行動し、こちらが予想しているよりスムーズに運営できたと感じました。ただし、ごく一部ですが、係の仕事をさぼり、指示の通らない児童もいました。このような子どもたちも意欲的な子どもに育てたいし体育的な行事にはそれを変えるだけの力があると信じています。これからも行事の企画運営を子どもたちが主役になってできるよう教職員一同力を合わせていきたいと考えています。

最後に先日の持久走記録会のことをお話します。やはり全体として自分のペースで走り続け、途中で歩くことなくガンバル児童が非常に多くなったと感じました。また、それを児童同士が讃えあえる雰囲気にあふれてきたとも思います。これは、体育の授業でペースランニングを実施してきたことがこのことにつながったのではないかと考えています。1年を除く全学年で行い、同じペースで走ることのねうちや大切さを教えることで、本番での順位やタイムだけが大切なのではなく、イーブンペースで最後まで走り続けることの大切さが定着してきたなど感じています。体育では、勝敗だけでなく、互いに努力してそれを称賛し合えるような教材を引き続き考えていきたいです。

【保健体育（保健）部】から

#### 1. 今年度の保健活動を振り返って（成果と課題）

保健活動について、今年度の成果と課題を報告します。今年度一人ひとりが、心身に関心を持ち、自己ともに健康で安全な生活を送ることができるようにする」を目標に、保健活動を進めてきました。初めに成果についてですが、昨年度に比べて、けがや病気で保健室に来室する子どもが少なくなった1年でした。（参照下の表）しかし、子どもが訴えるケガの内容にはまだまだ課題があります。

保健室への来室数	ケガ	病気	合計	病院へ行った件数
昨年度	1628人	429人	2057人	47件
今年度	817人	159人	976人	28件



しんどさを言葉で表現できる子もいれば、上手に表現できず、行動で表現している子や自分の中に抱え込んでしまっている子もいます。子どもたちは「自分は大事な存在なんだ」「自分を大切にしたいんだ」と感じる経験を繰り返すことで、まわりの人を大事に思う心が育っていきます。ささいなけがや、心のしんどさで保健室を訪れる子どもたちを見ていると、「けがを見てほしい」よりも、「話を聞いてほしい」「自分を見てほしい」という思いを強く感じます。そのような子どもたちの思いにどのように応えていくか、そして、健康に過ごすために自ら考えて行動できる子どもをどのように育てていくかが今後の課題と考えています。

#### 2. お子様の健康管理でご家庭にお願いしたいこと。生活習慣について

最近特に高学年で、携帯電話の使用等で、夜寝るのが遅い子どもたちが多く見られます。大人でも睡眠不足は体にこたえますが、成長期の子どもはなおさら、翌日心がイライラしたり、体がしんどくなったり…不注意からケガにつながる恐れもあり、健全な発育の妨げになります。学校でも繰り返し指導してはいますが、ご家庭での協力が不可欠です。子どもたちが健康で安全な学校生活をおくれるよう、

来年度も引き続き手を携えて取り組んでいきたいと考えております。一年間ご協力ありがとうございました。

【特別支援教育】から

全教員に協力してもらい、支援が必要なクラスへの入り込みや、個別指導が必要な子どもに支援したりして参りました。その中で、子ども一人ひとりを大切に、学力、学習意欲の向上に結び付けることができました。今後も一人ひとりのニーズに応じた教育を創り上げていきたいです。

## 学校教育自己診断に対する手だてにご協力ありがとうございました

学校教育自己診断で、「学習参観時廊下での保護者の私語が騒がしすぎる。」とのご指摘をたくさんの方々からいただきました。そこで、今回はPTA会長さんと教頭先生に

**「保護者の皆さん 私語は学習の妨げになりますから やめてください。」**

というゼッケンをつけて歩いてもらいました。すると、効果てきめん。保護者の方のご協力が素晴らしく、とても静かな学習参観であったようです。（渡瀬は校長会でいみませんでした。残念。）そんな様子を保護者の方からのお便りでいただいたのでご紹介します。

今日の参観すごくよかったです。みんなで発表したり考えたり、協力して制作して・・・1年間ですごく成長した子どもを見て大変うれしかったです。ありがとうございました。それと親たちの雑談も静かによかったし、教頭先生が廊下に立ってくださったおかげもあるかと思いました。先生方には大変かと思いますが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

### 私たち大人・教師の「子どもの見方・捉え方や向き合い方」について

学校生活では、子どもたちは、笑っている顔、穏やかな顔、怒っている顔、キレた顔、など本当に様々な顔を見せます。ところが、普段穏やかな顔をしていても教師の対応の仕方ですら子どもたちは随分違った表情をすることも事実です。ハッキリしていることは、大人もそうですが、子どもも突然キレることはありません。

そこに至るまでに伏線があるのです。つまり、言い分（キレる理由）があるのです。ですから、言い分をきちんと

聴くことが私たちに求められています。いい加減に聴くのではなく真剣に聴く必要があります。そして、その言い分を「分かるう」とする「人間的度量」が必要だと考えます。

「そうか、それで腹が立ったわけか、なるほど」「どうしておけば、キレることはなかったのかな」等の共感的な受容が求められるのです。

しかし、教師も生身の人間ですから、誤解を生むような言い方や忙しさの中でつい相手を尊重しない言い方をする場合があるかもしれません。そんなとき、子どもは自分の感情を抑えきれないこともあるのです。

しかし、だからといって暴力は許されません。いかなる言い分があっても暴力に訴えることは許されないことも同時に子どもに伝えなければなりません。自分自身をコントロールできる力をつけることも大人になるための大きな課題です。私たち大人・教師は子どもを育てる時に肝に銘じておかねばならないことは、「子どもの指導に暴力を用いないことです。」でない、必ず拡大再生産され次世代でも同じことが起きるのです。虐待されて育った子どもは大人になると虐待する大人が多いのです。

以上のことを念頭に子どもたちの指導にあたりたいと考えていますので、ご家庭でもご理解とご協力をお願いいたします。

